

船舶事故調査報告書

平成23年10月20日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 石 川 敏 行

事故種類	乗揚
発生日時	平成23年1月19日 01時15分ごろ
発生場所	山口県上関町千葉埼西方 上関町所在の舵掛岩灯標から真方位262°770m付近 （概位 北緯33°49.9′ 東経132°08.3′）
事故調査の経過	平成23年1月27日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	ケミカルタンカー 第十一菱化丸、698トン 129619、三菱化学物流株式会社、石峰海運株式会社 67.51m×11.00m×5.10m、鋼 ディーゼル機関、出力1,323kW、平成元年2月10日
乗組員等に関する情報	航海士A 男性 41歳 四級海技士（航海） 免許年月日 平成5年1月7日 免状交付年月日 平成20年10月1日 免状有効期間満了日 平成26年5月29日
死傷者等	なし
損傷	船底中央部に凹損及び亀裂
事故の経過	<p>本船は、船長ほか5人が乗り組み、塩化ビニールモノマー約550tを積載し、船首約2.90m、船尾約4.20mの喫水で航海士Aが単独の船橋当直に就き、平郡水道東口に向けて平郡水道推薦航路に沿って約13ノットの対地速力で自動操舵により西進した。</p> <p>航海士Aは、操舵スタンドの上面に肘をついた姿勢で見張りに当たり、沖家室島南方沖を通過した平成23年1月19日00時15分ごろ約267°（真方位）の針路に定めて航行し、同時40分ごろ山口県周防大島町南方沖に位置する平郡水道第3号灯浮標（以下、灯浮標については「平郡水道」を省略する。）の北方を通過したのち、居眠りに陥った。</p> <p>本船は、変針予定場所の第2号灯浮標付近に至ったが、そのままの針路及び速力で西進し、01時15分ごろ千葉埼西方の浅瀬に乗り揚げてこれを取り切った。航海士Aは、乗揚の衝撃で目覚め、周囲を確認して針路を南に変針した。</p> <p>本船は、乗り揚げたことに気付いた船長が昇橋して操船を代わり、航海士Aが貨物倉への浸水を認めて船長に報告したのち、修理を行うこととして山口県柳井市の造船所に向かった。</p>

<p>気象・海象</p>	<p>気象：天気 曇り、風向 西南西、風力 1、気温 約3～約5℃、視程5海里（M）以上 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の末期 月齢等：月齢 14.7、月没時刻 06時25分</p>	
<p>その他の事項</p>	<p>航海士Aは、健康状態は良好であり、本事故当時は、薬物を服用しておらず、酒気を帯びていなかった。 本船の船橋当直体制は、0-4が航海士A、4-8が他の航海士及び8-0が船長であった。 航海士Aは、18日の00時～04時の当直を終えた後、約5～6時間熟睡した。航海士Aは、12時～16時の当直を終えた後、ほとんど睡眠をとっていなかったが、眠気を感じていなかった。 航海士Aは、00時15分ごろに沖家室島南方沖付近で定針した頃、周囲には同航船が2隻存在していたが、本船の航行に支障となるものではなかった。 本船の操舵室には、居眠り防止援助装置が設置されており、赤外線センサーが当直者の動きを4分間感知しない場合には一次警報が、その後、更に1分間感知しない場合には二次警報が作動するように設定されていたが、本事故時、警報は作動しなかった。</p>	
<p>分析</p>	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし なし 本船は、周防大島町南方沖に位置する第3号灯浮標の北方沖を平郡水道推薦航路線に沿って自動操舵で西進中、単独で船橋当直中の航海士Aが居眠りに陥ったことから、変針予定場所を通過して千葉埼に向けて航行し、千葉埼西方の浅瀬に乗り揚げたものと考えられる。 航海士Aは、操舵スタンドの上面に肘をついた姿勢で船橋当直を続けていたところ、視界が良く、周囲に航行中の他船が少なかったことから気が緩み、居眠りに陥ったものと考えられる。 変針予定場所の第2号灯浮標から本事故発生場所までの距離は、約1.5Mであり、本船の航走時間は約7分であったものと考えられる。 居眠り防止援助装置は、本事故時、警報が作動しなかった可能性があると考えられるが、その状況を明らかにすることはできなかった。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、夜間、本船が、周防大島町南方沖に位置する第3号灯浮標の北方沖を平郡水道推薦航路線に沿って自動操舵で西進中、単独で船橋当直中の航海士Aが居眠りに陥ったため、変針予定場所を通過して千葉埼に向けて航行し、千葉埼西方の浅瀬に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>	